

第28回 史料保存利用問題シンポジウム

コロナ感染症をめぐる記録と記憶 —何を、誰が、どう残すか—

日時：2023年6月24日(土) 13:30~17:30
オンライン (Zoom) 開催 (参加費無料/先着順受付)



参加登録はこちらから <<https://keio-univ.zoom.us/meeting/register/tZUlcuGsrDMoHt24S1b7axoFYj1w6YjiORPo>>

総合司会：久留島 典子 (日本学術会議連携会員/神奈川大学教授)

開会挨拶：若尾 政希 (日本歴史学協会委員長/日本学術会議会員/一橋大学教授)

報告

飯島 渉 (日本学術会議連携会員/青山学院大学教授/感染症アーカイブズ代表)

コロナ感染症をめぐる記録と記憶—現状と課題—

関 なおみ (大田区保健所感染症対策課長/医師)

保健所の新型コロナウイルス感染症対応に係る記録について

工藤 航平 (国立歴史民俗博物館准教授)

東京都における感染症記録の保存対応と課題

持田 誠 (北海道浦幌町立博物館学芸員)

地域博物館におけるコロナ関係資料の収集について

特別報告

伊藤 一晴 (国立公文書館上席公文書専門官)

准認証アーキビストの検討状況について

パネルディスカッション

パネリスト：飯島 渉/関なおみ/工藤航平/持田 誠

司会：大友 一雄 (日本学術会議連携会員/日歴協国立公文書館特別委員会委員長)

佐藤 孝之 (日歴協史料保存利用特別委員会委員長)

閉会挨拶：栗田 禎子 (日本学術会議会員/千葉大学教授)

主催：日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会

日本学術会議史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会

後援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・日本アーカイブズ学会